質的調査法の発想

社会システム科学概論　3
櫻井義秀

学問における抽象化（人文学）

- 哲学・倫理学　人間、社会一般の構成、規範
- 歴史　人、家族、社会、国家に関わる一回限りの個性的なストーリー　関連と現代的意義
- 文学　人間、社会に関わる個的・一般的問いを出す
- 人間システム科学　人間、社会に関わる一般論

学問における抽象化（人間システム）

- 人間の認識・行動　認知・行動心理学
- ↓（生理学的個体の分析）
- 集団行動と認知構造　社会心理学
- ↓（群としての人間社会の分析）
- 社会関係と行為　社会学
- ↓（社会的属性：階層・権力関係の分析）
- 地域空間と行動　地域学
- （地理的・経済的・生態的空間の分析）

定性的研究と定量的研究

- 定性：人類学・歴史学
- フィールド調査（観察、面接、資料分析）
- モノグラフ（記述、物語）

- 定量：心理学・経済学・社会学
- サーベィと実験（サンプリングと質問紙調査、統制的実験）
- 科学論文（データ分析、仮説検証）

研究法の特長

- フィールドワーク
- （長所）
- 現実の社会の複雑性、対象との接近性、調査計画の自由度
- （弱点）
- バイアスの排除、事例数　少ない
- （どちらとも）
- 因果関係の把握

- サーベィ
- （長所）
- 事例数の多さ、一般的相関の抽出
- （弱点）
- 現実との距離、因果関係の把握
- （どちらとも）
- バイアスの排除

調査法の組み合わせ

- 折衷というよりも調査法の利点を生かした多元的分析　→多くの学問で採用される

- フィールドワーク　プラス　資料分析
- サーベィ　プラス　面接調査
- 実験　プラス　事例分析
- テクスト　プラス　経験（視座）

聞き取り

- フォーマル･インタビュー
- インフォーマル･インタビュー
- 質問紙調査から半構造化インタビューまで
- 参与観察、フィールド･ノート
- 調査仮説、見当がかなりついている
- 分析の枠は調べながら作る

青木秀男『現代日本の都市下層』明石書店2000

- 寄せ場の調査環境：調査を拒絶　抑圧、恥、調査者と当事者の存在の壁
- 従来、労働経済学（貧困層形成の解明）、社会病理学（絶望と孤独をみる）
- 青木：生活史から　質的調査により、153頁
- 1)社会変動、2)人間･生活、3)主観的現実のありよう、4)個人のライフヒストリー　184頁
- 調査するもの/されるもの　研究/運動

寄せ場労働者の意味世界

- 日雇い：低い熟練、単身、移動性　労働階層の末端　その内部でも
- 労働能力：職人層－中間層－雑工
- 労働契約：出張層－直行層－日雇い･現金
- 居住形態：ドヤ常連－不定住－野宿層
- 出自：被差別マイノリティと新来外国人
- 寄せ場：生きる･働くに関わるミジメとホコリ198頁

野宿層の労働

- 2003　厚生労働省調査　全国　25,296人
- 日雇い労働→50代前半：体力の衰え/生活保護を受給するには早すぎる
- 1990年代、企業の再編→失業：家族からの離反/肩書き喪失の孤独
- 家出若者、フリーター
- 労働形態1)廃品回収、2)日雇い、3)ヤクザがらみ、4)雑誌販売

野宿者の概念

- 浮浪者：僭称　実際少ない
- 住所不定者：行政用語　一時的か慣習的か
- 路上生活者：余儀なくされる側面　インド
- ホームレス：共通　欧米、途上国　世界都市
- 野宿労働者：青木　日雇いと対
- 自治体、NPOの支援　居住施設、仕事

学生による卒論（社会システム科学）

- ホームレス支援団体ボランティア　から　支援活動、対象者との出会い、ライフヒストリー（生活保護受給まで）
- 問題意識：支援の方策
- 野宿者の観察･聞き取り　上野、隅田川、代々木公園　男12　女性1
- 問題意識：野宿者の社会関係、共同性創出の契機